

方針 4 歌の広がりをうたごえ新聞読者につなぎ、豊かな“うたごえ発ジャーナル”を確立する

〔うたごえ新聞、季刊「日本のうたごえ」〕

うたごえ新聞

06年うたごえ新聞編集は、「世界の羅針盤 憲法九条をまもりいかす文化発信」「新鮮な運動の血液を送る。うたごえ発ジャーナルとして広げる新聞」を基調とした。

憲法関連では、運動方針の柱“SINGING PEACE 999”を豊かに展開するために、年間を通し「I LOVE 9」を特集。各地の実践紹介、音楽九条の会の活動、「弁護士と「第9」コンサート」などを逐次紹介した。全国から実践が寄せられ、数次に渡って特集が組めた。また、「一つの人類へ、日本国憲法の先見性」(井上ひさし)、「世界の宝物、憲法が見えますか」(ジャン・ユンカーマン)、「民主主義の試金石 九条」(高橋哲哉)、「世界の灯台、憲法九条」(森村誠一)、「被爆者の願いは九条脈打つ世界」(土山秀夫)とインタビュー等で識者の発言から、憲法を深める紙面作りを行った。

編集の特徴その2は、“つながり”の特集。“06年日本のうたごえ祭典 in ぶくい・北陸”開催地の運動を伝えるルポ「子どもの未来を拓く詩」を通し、二本松はじめさんらがすすめる“つながりあそび・うた”いのちをまんなかにつながりあう。それは生きる力、その源は平和の運動の広がりとの接点を紙面からもつなげた。全労連副議長西川征矢氏はインタビューで「人々が分断される今、つながりを取り戻すうたごえ運動は救世主」と語った。継続し深めるテーマである。

この他、声楽家杵谷恵子さんへのインタビューをはじめ音楽づくりの特集。脱アメリカの変革が進むベネズエラ特集はじめ、バンクーバー、中国、韓国、アフガニスタン、スペインと積極的な通信活動も反映し、世界に視野を広げた。

「読み・作り(通信・企画提案)・広げる(読者拡大)うたごえ新聞」の活動をと開催する“うた新フォーラム”は、福井、京都、兵庫、奈良、東京等で開催。特に全国祭典開催地福井での、祭典成功の土台にうたごえ新聞を置いたフォーラムの開催、企画提案、通信活動、読者拡大がとりくまれ、紙面からも祭典成功の力となった。

また、「読む」活動は、運動創造、紙面作りの上で大きな力となることを重視し、フォーラムの全国展開を強める必要がある。

季刊「日本のうたごえ」

運動を豊かに展開していくために、年間の運動の中心的テーマを深め学び合う編集にとり、06年度は、05年祭典広島島の教訓、06年ぶくい・北陸のとりくみ、憲法、運動論を特集。「うたごえ運動と憲法」(高橋正志)、「日本国憲法が国歌になる日を夢見て」(坪田康男)、「メディア社会の文化を考える 生身の感動・共有で絆をとりもどす」(有原誠治)、「音楽創造・批評」(小村公次)を紹介した。

運動内からの論文・提言(合唱構『ぞうれっしゃがやってきた』20周年特集他)も積極的に行われた。特に、「創立60周年を迎えるうたごえ運動の創造課題」(守屋博之)は、その後、小林康浩氏から連載執筆で呼応して意見が出され、「うたごえ運動」を深める力になっている。理論学習誌としてこの点をさらに強める必要がある。